

5音で導け「枕詞」

和歌には「枕詞」「序詞」「掛詞」「縁語」「体言止め」「本歌取り」などほかにも様々な修辭法があります。先人たちはこれらを用い、たった三一字の中に自身の気持ちを込めたのです。これらを知ることが和歌の解釈や当時を生きる詠者の思想の一端に迫ることになるのではないのでしょうか。

本プリントでは「枕詞」に言及します。その中で、枕詞の由来に触れることがあります。しかしその由来というものは、複数存在することもよくあります。ですから、ここで紹介する由来もあくまで一例という視点で、語呂合わせやイメージで覚えるような感覚で、楽しんでもらえたら幸いです。

1、「枕詞」とは…読みは「まくらことば」といいます。主に5音から成ります。働きは「ある特定の語を導く」というものです。要は、枕詞ごとに、その後ろに来る言葉が決まっているということです。また普通は口語訳をしません。

例えば…

ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川 から紅に 水くくるとは

(百人一首…一七番 在原業平)

ちなみに訳は、「さまざま不思議なことが起こったという神代の昔でさえも、こんなことは聞いたことがない。竜田川が(一面の紅葉が浮いて)真っ赤な紅色に、水をしぼり染め込んでいるとは。」と解釈されるでしょう。

ここでは枕詞が「ちはやぶる」になります。先述したように5音から成り、「神」という特定の語を導いていて、特に口語訳もしていません。このようなものを「枕詞」といいます。

では、ここで一つ疑問が湧きませんか。「なぜ、『ちはやぶる』は『神』を導くの?」との疑問は「ちはやぶる」という枕詞だけではなく、「たらちねの」しかり、「あかねさす」しかり、ほかの枕詞でも同様な疑問を持てると思います。先述したようにやはりここには由来があります。本プリントを通してその由来を考え、枕詞をマスターしていきましょう。ただし、あくまで諸説ある中の一説であり、このプリントの内容は、枕詞とそれによって導かれる語を覚えるためのヒント程度に思ってください。

なお、本プリントの枕詞は『読解を大切にする体系古典文法 七訂版』(数研出版)の140頁に掲載されているものです。これら以外にも枕詞があるので、出会う度に調べるようにしてください。また、導かれる語に関しては、あくまで一例ですので、これもまた出てくる度に調べてください。

枕詞	あかねさす	あさぢうの	あしひきの	あづさゆみ	あまざかる	あらたまの	あをによし	いそのかみ	いはばしる	うつせみの	からころも
漢字	茜さす	浅茅生の	足ひきの	梓弓	天離る	新玉の	青丹よし	石の上	石走る	空蟬の	唐衣
導く語	日・紫・ 照る・君	小野・ 己・野	山・峰	引く・音 張る・末	鄙・日・ 向かふ	年・日・ 春	奈良・ 国内 <small>くぬち</small>	古る・ 降る	垂水・ 滝 <small>たるみ</small> ・ 近江 <small>おうみ</small>	世・人・ 身・命	着る・ 袖・裁つ
由来	茜色がさして美しく照り輝くことから。	かや・ちがや・ぼう 茅 <small>や</small> (まばらに生えた、または丈の低い茅)の生えているところから。 足を引きずって山などをのぼることから。 山すそを引くの意味から。	梓で作られた弓の末(部位)に弦を張り、矢を つが 番え、矢を引き、矢を放つと音が鳴ることから。 天遠く離れている地から。「鄙 <small>ひな</small> 」は都から離れた遠い、卑しい地のこと。 年などの初めということから。新春。新年。	顔料の青土の産地ということ。また青と丹(黄色がかかった赤色)の色で美しいことから。 奈良の地名である石上のこと。ここに布留の地が属して「石の上布留」と呼ばれ、そこから同音の「古る(ふる)」「降る」などを導く。 動詞「いはばしる」の意味が「水しぶきを上げ岩の上を激しく流れる」というところから。	「空蟬」は蟬の抜け殻で、儂さの連想から。 中国風の衣装や美しい衣装のことから。中国から伝わった優れた品物を「唐〇〇」という。						

枕詞	漢字	導く語	由来
くさまくら	草枕	旅・露・結 ぶ・仮・ 旅・旅寝	旅の野宿で、草を結んで枕を作ったことから。また、草に「露」がつくことから。
くれたけの	呉竹の	節・世・ 夜・伏し	竹の節ということから。また、「よ」「ふし」の読みから同音の言葉も導く。
ささがにの ささがねの	細蟹の	蜘蛛・雲	「細蟹」は蜘蛛の意味であるから。また、同音の「雲」「曇る」なども導く。
さざなみの	細波の	志賀・ 近江・ 寄る・夜	波は押し寄せることから。また、琵琶湖西沿岸一帯を「楽波(さざなみ)」ということから、地名「大津」「志賀」などを導き。また、「寄る」と同音の「夜」を導く。
しきしまの	敷島の 磯城島の	やまと 大和	奈良の地名である「磯城(しき)」のことで、大和の異名を指すから。また、「島を敷く」より、島国の日本列島を指すからとも。
しきたへの	敷き妙の 敷き栲の	床・枕・手 枕・黒髪・ 衣・袖	「敷き妙・敷き栲」は寝具のことであることから。また枕に垂れかかる「黒髪」や、同じ繊維である「衣」「袖」なども導く。
しろたへの	白妙の 白栲の	衣・袖・ 紐・雲・雪	「白妙・白栲」は、白い布のことを意味するところから、繊維のものや白いものを導く。
たかさごの	高砂の	松・尾上 <small>おのえ</small>	詳細は分らないが、兵庫県高砂市の高砂神社の松に「尾上の松」があり、「高砂」という曲に「尾上の松」と出てくる。
たまきはる	魂極わる	命・世・ 現・内 <small>うち</small>	詳細は分らないが、「魂きわまる」で生まれてから死ぬまでの意で、「命」「世」「うち(現)」また、同音で「内」などにかかる
たまづさの	玉梓の	使ひ・妹・ 人・言	手紙を梓の木に結び付けて使者に持たせ、妹 <small>いも</small> (男性から見た愛しい人)のもとへ遣るという意味から。

枕詞	たまのをの	たまぼこの	たらちねの	ちはやぶる	とりがなく	ぬばたまの うばたまの	ひさかたの
漢字	玉の緒の 魂の緒の	玉銚の	垂乳根の	千早振る	鳥が鳴く	鳥羽玉の 射干玉の	久方の 久堅の
導く語	長し・ 絶ゆ・ 乱れ・ 命・現 <small>うっ</small> し	道・里	親・母	神・宇治・ わが大君	<small>ひがし</small> 東	黒・夜・ 闇・月・夢 髪	空・光・ 天 <small>あま</small> ・日・ 都
由来	<p>玉に通ず緒（細い紐）を意味し、紐の長短や切れたり、乱れたりすることから。また、魂<small>たま</small>の緒から「命」「現し」を導く。</p>	<p>未詳。 玉銚とは「美しい矛・玉で飾った矛」という意味があるが、なぜ「道」「里」を導くのかは分かっていない。なお、「玉銚の」が「道」を導くことから「玉銚」には「道」という意味もある。</p>	<p>未詳。 一般的に「垂れた乳」ということで「母」「親」を導くといわれるが、この解釈は後世になりつけられたという説もあり、詳細不明。なお、「たらちね」を「母」と訳す場合もある。</p>	<p>動詞「ちはやぶ」の連体形で「荒々しい・猛<small>たけだけ</small>々しい」の意味より、荒々しい神や荒々しい氏争いということで「神」や、「氏」と同音の「宇治」を導く。</p>	<p>（都より）東国の人の言葉は分かりにくく、鳥が鳴くようであることから。また、鳥が鳴くと東から日が昇ることから。</p>	<p>ヒオウギの実。実が丸くて黒いことから。 未詳。 天を永遠に堅固なものであることや、天を遠いところのものとしたことから。また、都を天井の世界になぞらえ、永遠に栄えるものとしたためともいわれる。</p>	

枕詞	漢字	導く語	由来
もののふの	武士の	八十 <small>やそ</small> ・ 五十 <small>いそ</small>	武士の氏の数が多ことから「八十」「五十」を導く。また同音から「矢」を導く。さらに「氏」や同音である「宇治」も導く。
ももしきの	百敷きの 百石城の	大宮・ うち	「百 <small>も</small> 石 <small>い</small> 木 <small>し</small> 」の変化した語であり、多くの石や木で造ってある物・城などの意味から。
やすみしし	八隅知し 安見知し	わが大君・ わご大君	国の隅々までお治めになっていらっしやるという意味より。
わかくさの	若草の	妻 <small>つま</small> ・夫 <small>つま</small> ・ 妹 <small>いも</small> ・新 <small>にひ</small> ・若 <small>わか</small>	若草が柔らかく新鮮で、愛でるべきものであることから。

(発展)

枕詞なのに枕詞ではない？

実は枕詞には、よく枕詞として用いる語を、枕詞で用いない場合があります。例えば『義経記』に、

急げども 行きもやられず 草枕 静かになれし ころならひに

とあります。これの訳は「急いで逃げようにも行くことができない。旅寝を静かにするよう
に、あなた(静御前)に慣れ親しんだ習慣で。」となります。この歌では「草枕」が使われ
ていますが、「草枕」という語によって導かれる語が無い¹ため、これは枕詞でなく、「旅」「旅
寝」のような名詞として用いられています。

このように、導かれる語が無い場合、よく枕詞として用いる語を、枕詞で用いない場合が
ありますので、注意してください。

